

一般社団法人
日本オープンオンライン教育推進協議会
について

事務局長 福原美三

2013.11.28

本日のテーマ



- 教育のオープン化、ネット利用の障壁やねらうべきインパクト、
- 政府がおこなうべき支援や規制改革

オープンエデュケーションの歴史

- オープンコースウェア
 - 2001年 MITがOCWのコンセプトを発表
 - 2003年 MIT本格的にOCWを開始（当初500コース）
 - 2005年 日本でのOCW開始（6大学）
 - 2006年 国際コンソーシアム発足（MIT内組織）、JOCW発足（9大学）
 - 2007年 MIT当初の計画とおり、全コース（1800）公開を達成
 - 2008年 国際コンソーシアム独立したNPOに
 - 2013年 49カ国、277組織から約25,000科目が公開
- オープン教育資源（OER）
 - 2002年 UNESCO主催の“Forum on the Impact of Open Courseware for Higher Education in Developing Countries”にてOER提唱
 - 2012年 UNESCOが“2012 World Congress on OERs”を開催し、2012パリOER宣言を採択

オープン教育の進展



段階	キーフレーズ	説明	プロジェクト例
Phase1	CloseからOpenへ	パラダイムシフト	オープンコースウェア
Phase2	リッチメディア化	講義動画配信・モバイル環境	YouTube, iTunesU
Phase3	学習コミュニティ形成	学習者の学習モチベーション維持	OpenStudy, P2PU
Phase4	スキル・達成度認定	学習者の価値創造・社会での認知	OERU
Phase5	MOOCs	大規模データ分析、Learning Analytics,	Coursera, edX, Udacity

MOOC(2011/2012-)

- MOOCS(Massive Open Online Courses)
 - Coursera
 - edX
 - Udacity
- OCWとは異なり、学習者は事前に登録し、スケジュールされたオンライン教育(e-Learning)を学習し、課題や宿題などにオンラインで回答（多くはComputer Testing)し、コース修了認定に合格すると修了証が交付される。
- オンラインコミュニティで議論や質疑が可能

JMOOC/組織と運営



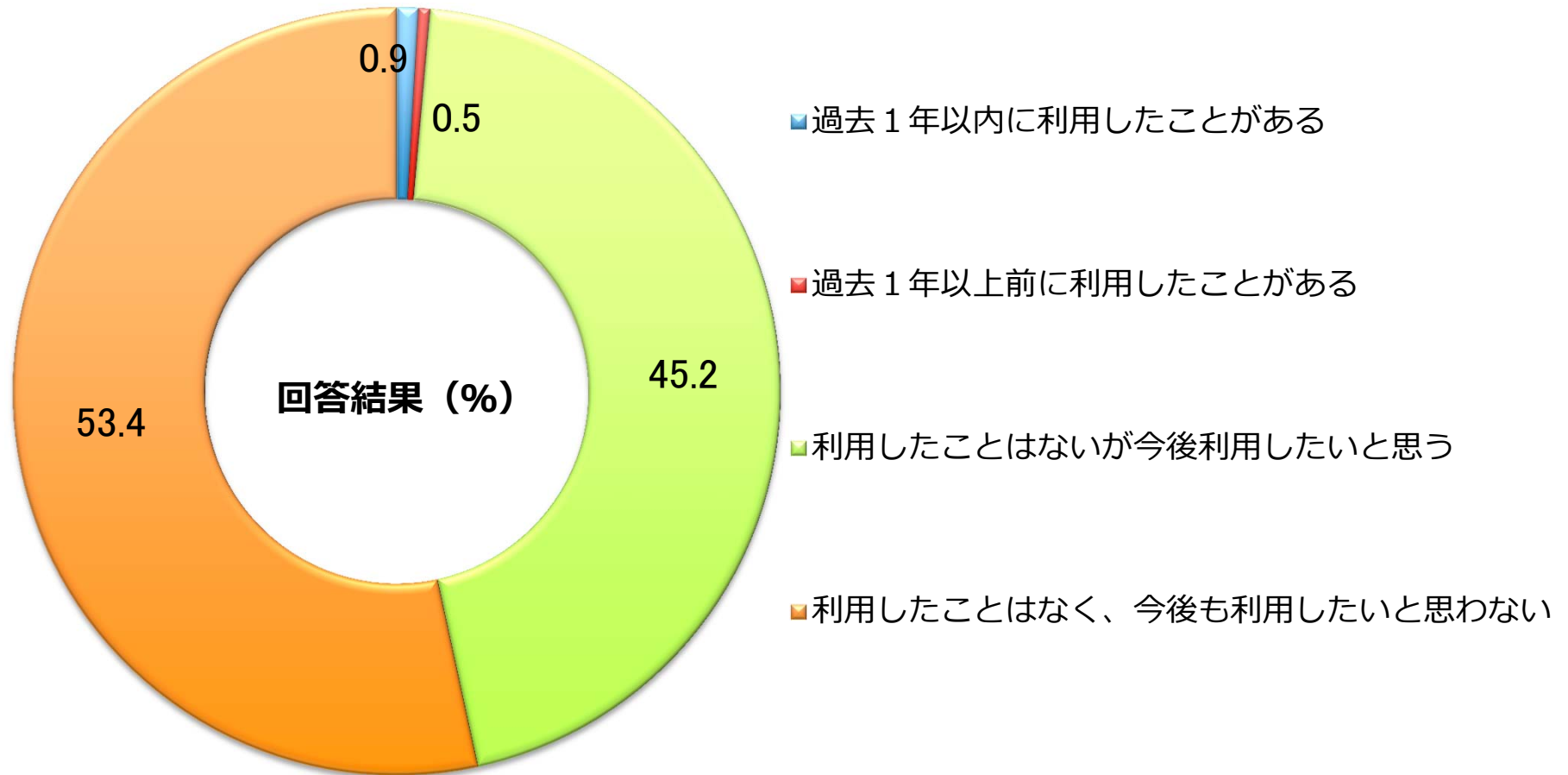
- 11/1 一般社団法人登記完了
- JMOOCミッションステートメント
 - JMOOCは日本とアジアのための「**学びによる個人の価値を社会全体の共有価値へ拡大するMOOC**」の実現を産学の連携によって強力に牽引します
- 先行欧米MOOCとの違い
 - VCや特定大学から一括して大規模な資金提供を受けるのではなく、**できるだけ多くの組織から広く会費の提供を受ける**
 - 「**皆で汗をかき、共通の目標を達成する**」
- 2014をパイロットフェーズと位置づけ、柔軟かつ大胆なプロジェクト運営を行う

MOOCについての世の中の期待



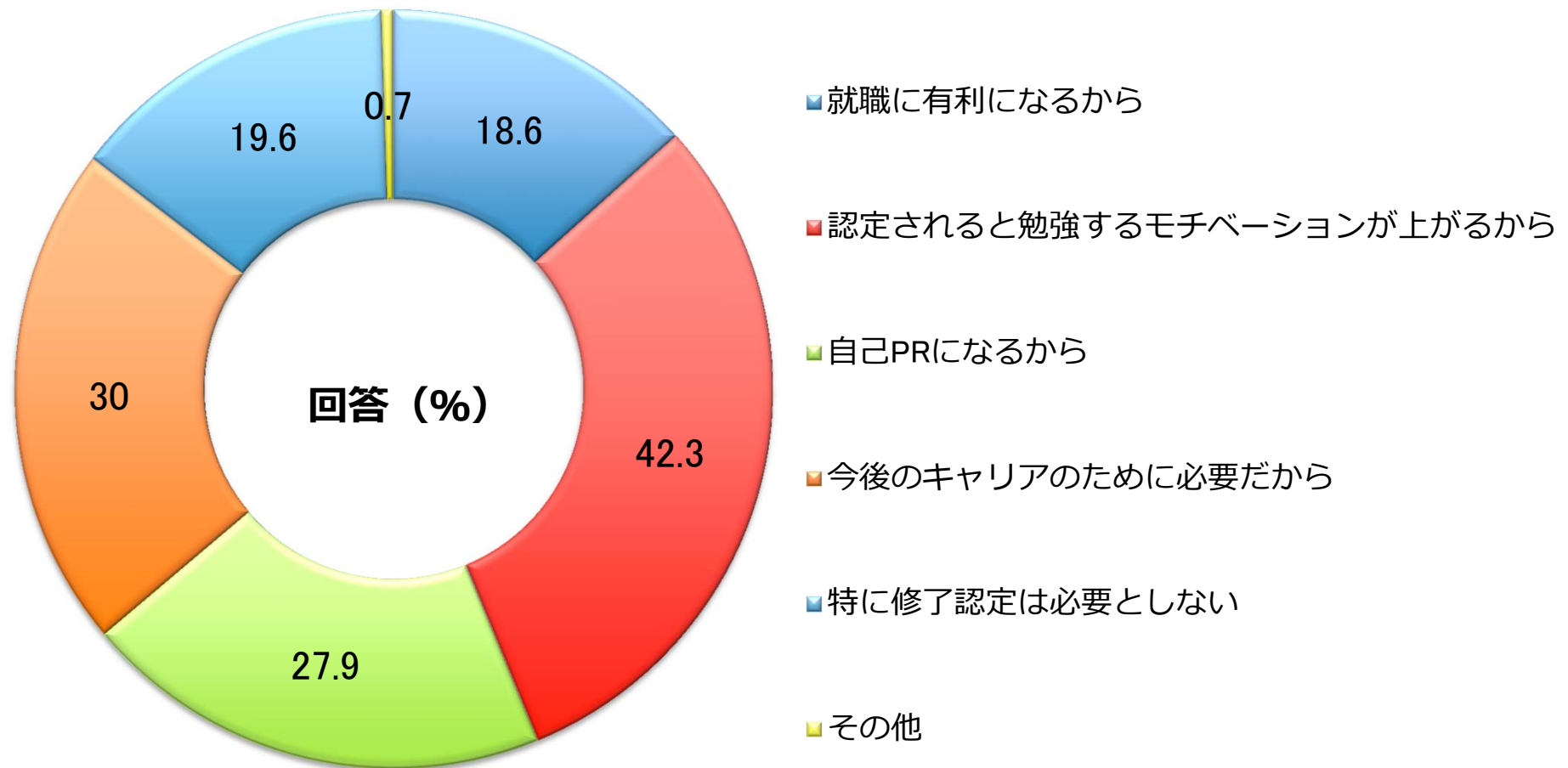
- インターネットリサーチによる調査結果
 - 調査期間： 2013/9/11～2013/09/17
 - 総回答数 1278 サンプル
 - 男、女10代から60代まで各100名余
 - 調査方法 インターネット調査
 - 調査機関 NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション

問26. この取り組み(MOOCs)を利用したことがありますか。
または、今後利用したいと思いますか。



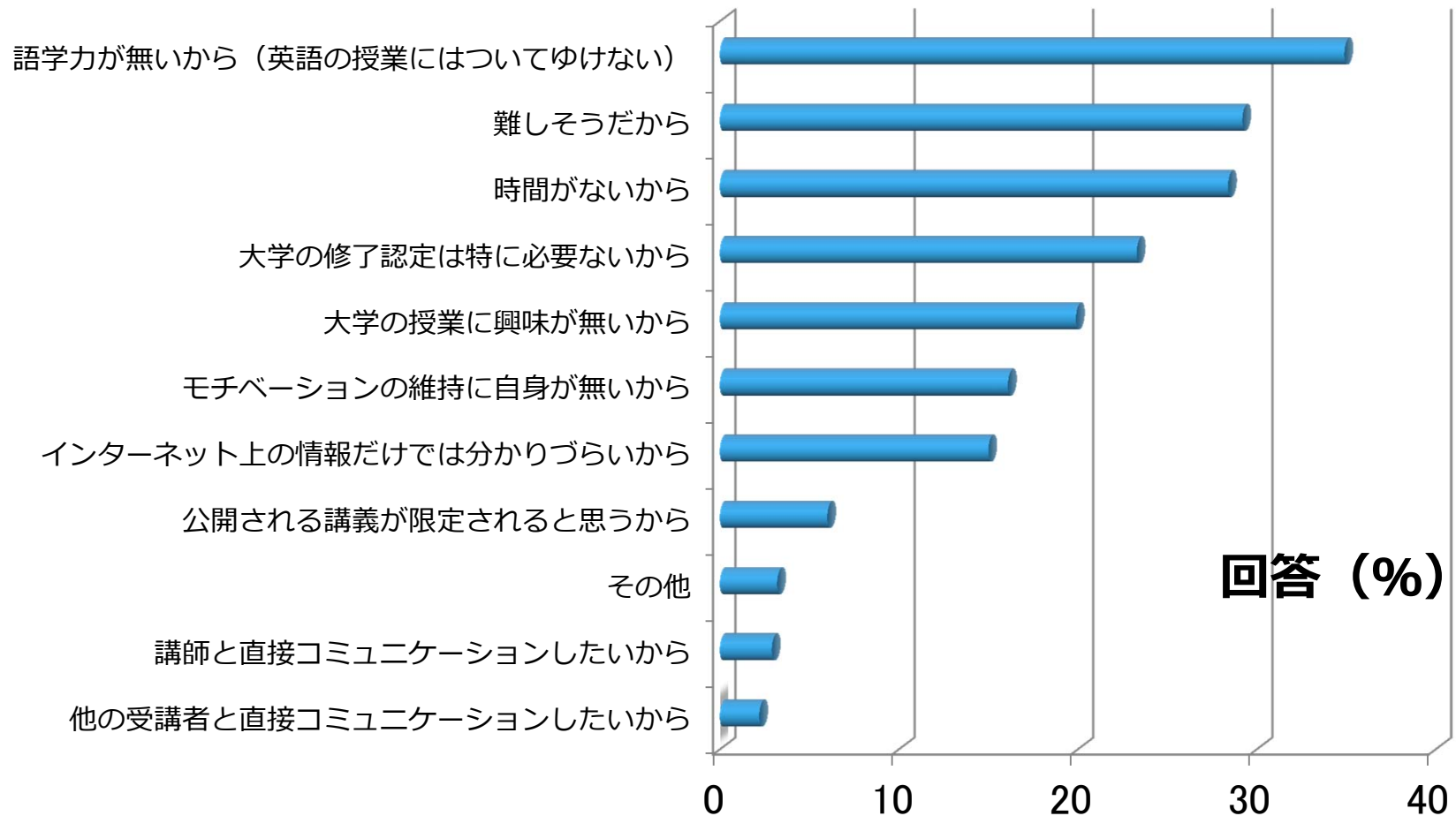
「利用したことはなく、今後も利用したいと思わない」(53.4%)が最も多く、以下「利用したことはないが、今後利用したいと思う」(45.2%)、「過去1年以内に利用したことがある」(0.9%)の順となっている。

問27. あなたが修了認定を必要とする理由をお答えください。



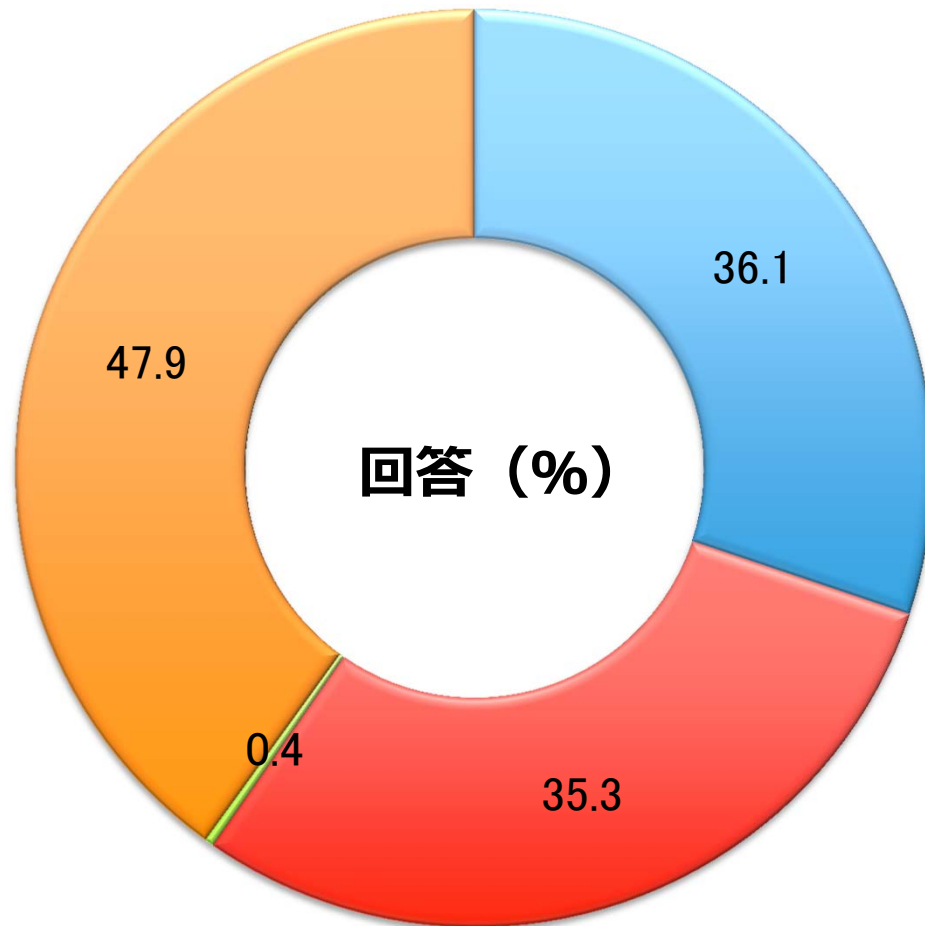
「認定されると勉強するモチベーションが上がるから」(42.3%)が最も多く、以下「今後のキャリアのために必要だから」(30.0%)、「自己PRになるから」(27.9%)の順となっている。

問28. 利用したいと思わない理由をお答えください。



「語学力がないから(英語の授業にはついていけない)」(34.9%)が最も多く、以下「難しそうだから」(29.2%)、「時間がないから」(28.4%)の順となっている。

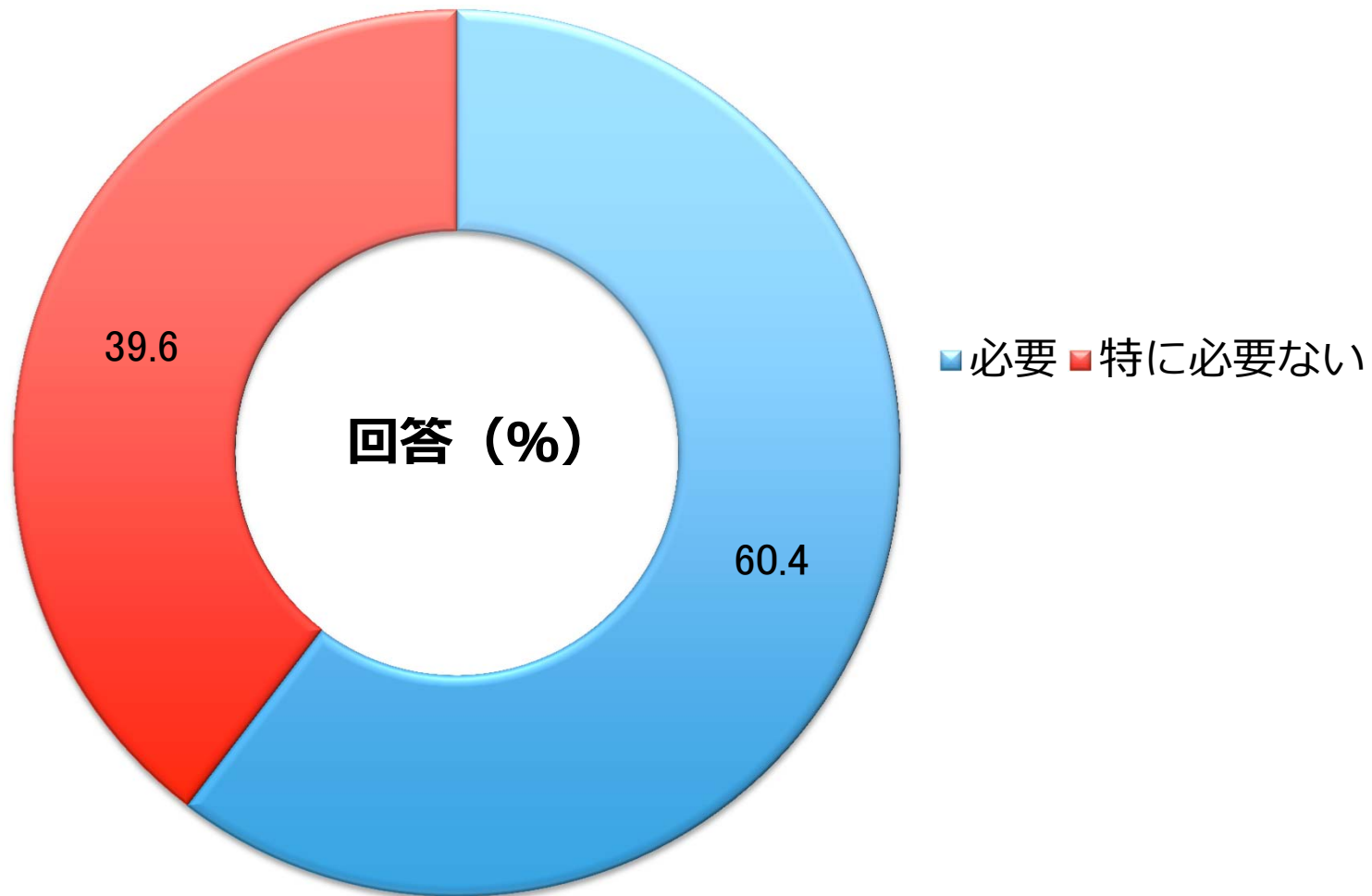
問29. 外国語がわからなくても受講できるようなサポートがあれば、「MOOCS」を利用したいと思いますか。あてはまるものを全てお選びください。



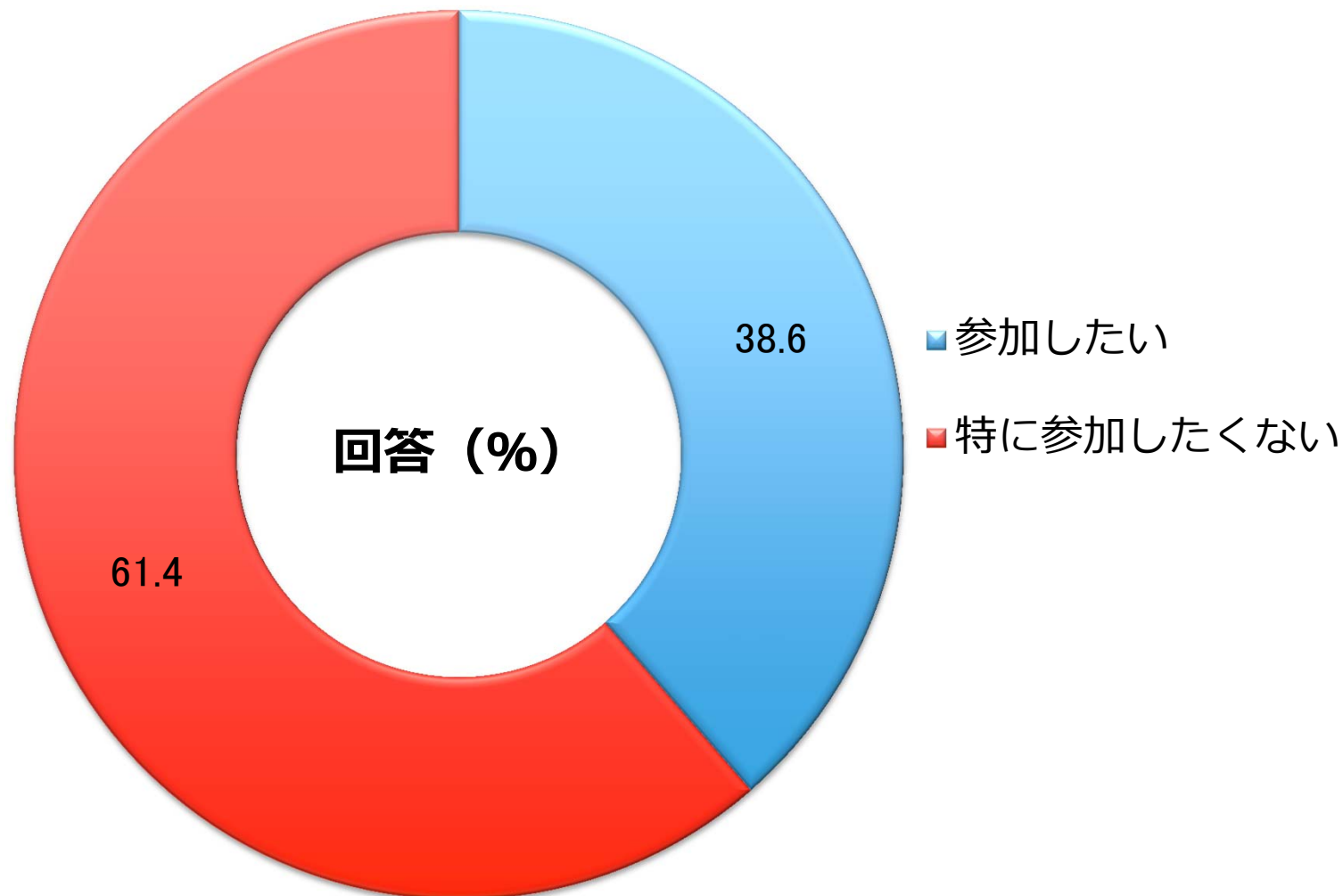
- 日本語吹き替えの講義があるならMOOCを利用したい
- 日本語の字幕の出る講義があるならMOOCを利用したい
- その他の語学サポートがあるならMOOCを利用したい。
- 語学サポートがあってもMOOCを利用したいと思わない

「語学のサポートがあっても、MOOCSを利用したいと思わない」(47.9%)が最も多く、以下「日本語吹き替えの講義があるなら、MOOCSを利用したい」(36.1%)、「日本語の字幕が出る講義があるなら、MOOCSを利用したい」(35.3%)の順となっている。

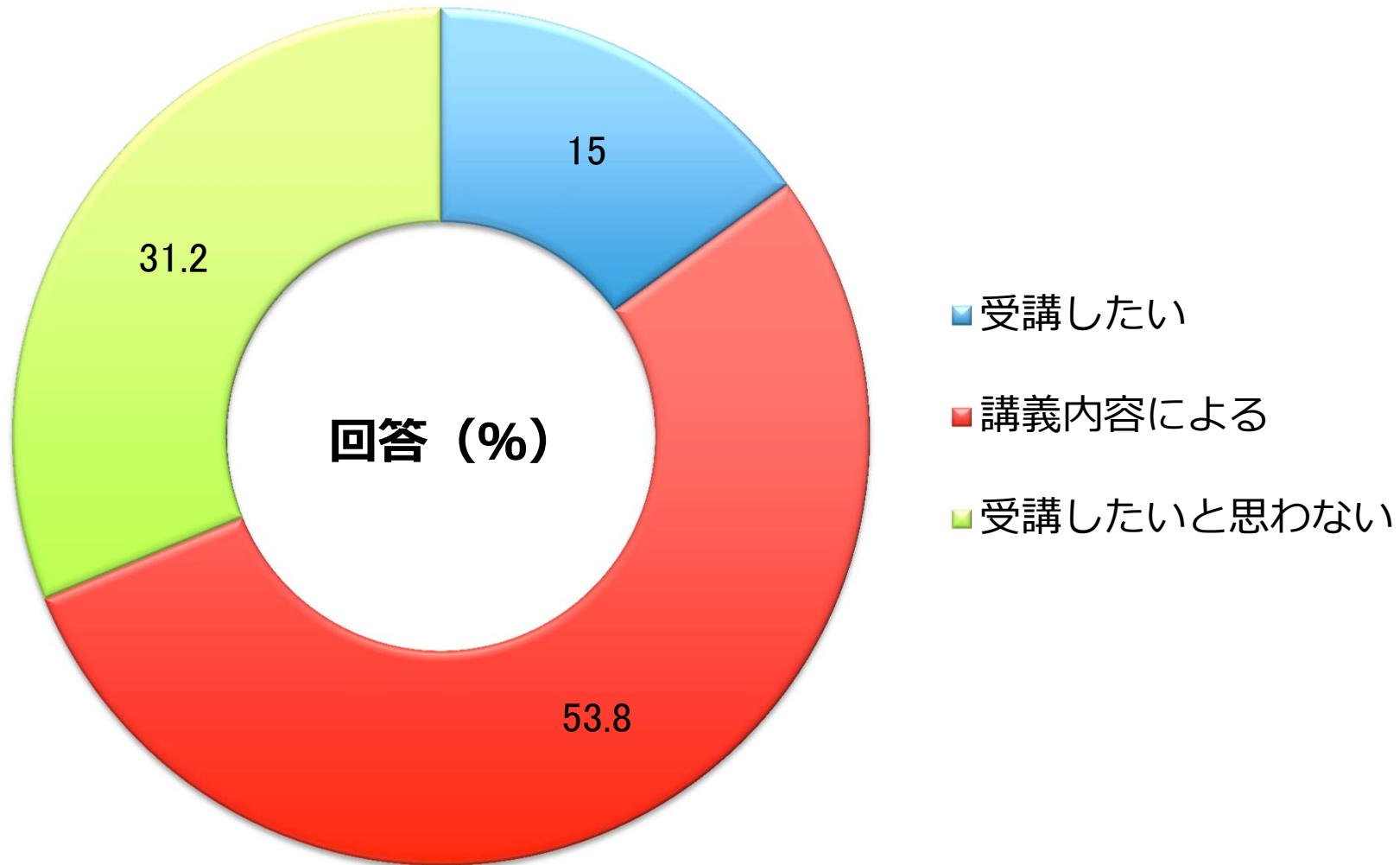
問30. あなたが「MOOCS」を利用するとした場合、インターネット上で、日本人同士での意見交換・質問などをする場が必要だと思いますか。



問31. あなたが「MOOCS」を利用するとした場合、
カフェなどで、直接会って日本人同士での意見交換・質問
などをする場があったら、参加したいですか。

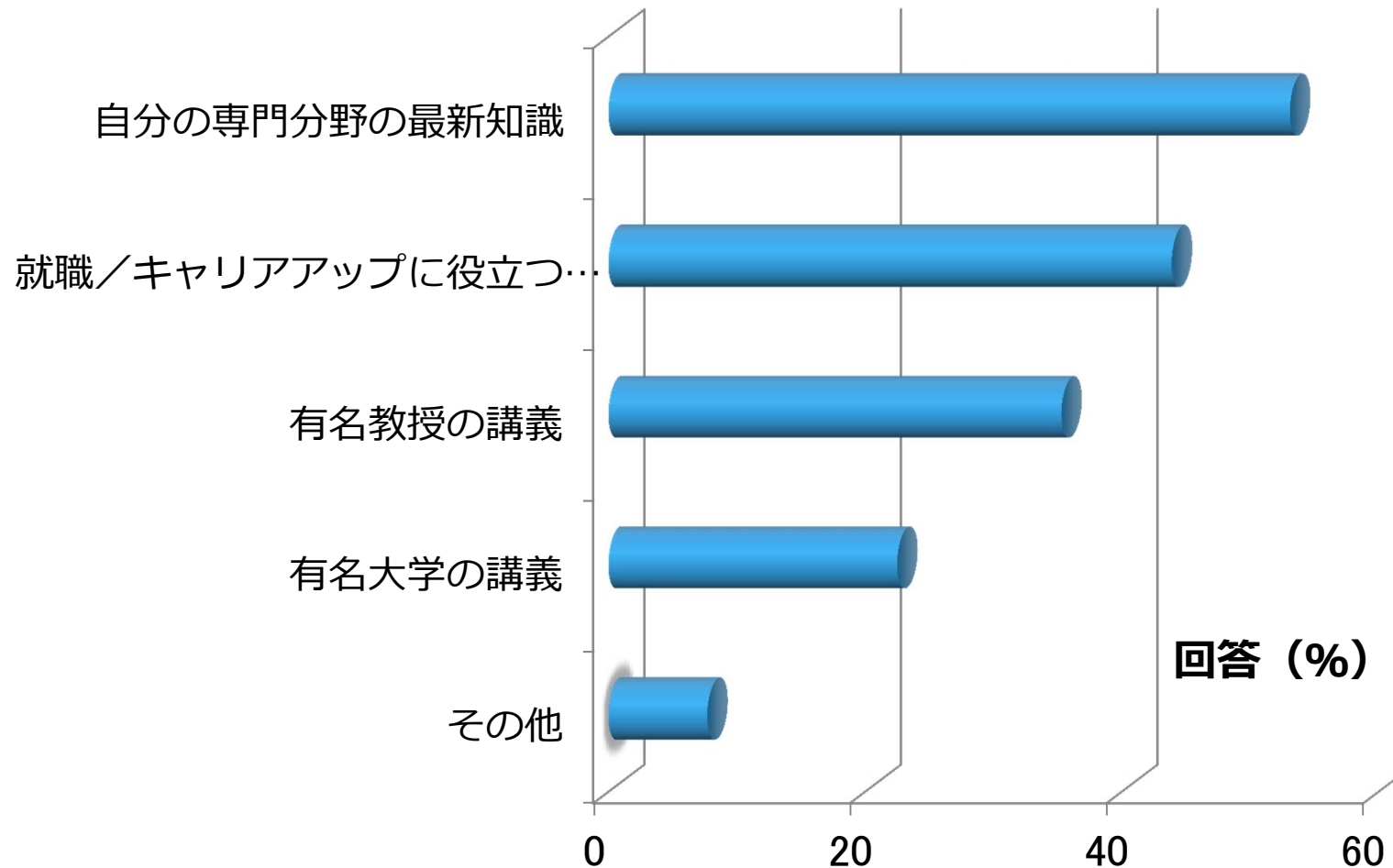


問32. 「MOOCS」において、日本人講師による日本語での講義があれば受講したいと思いますか。



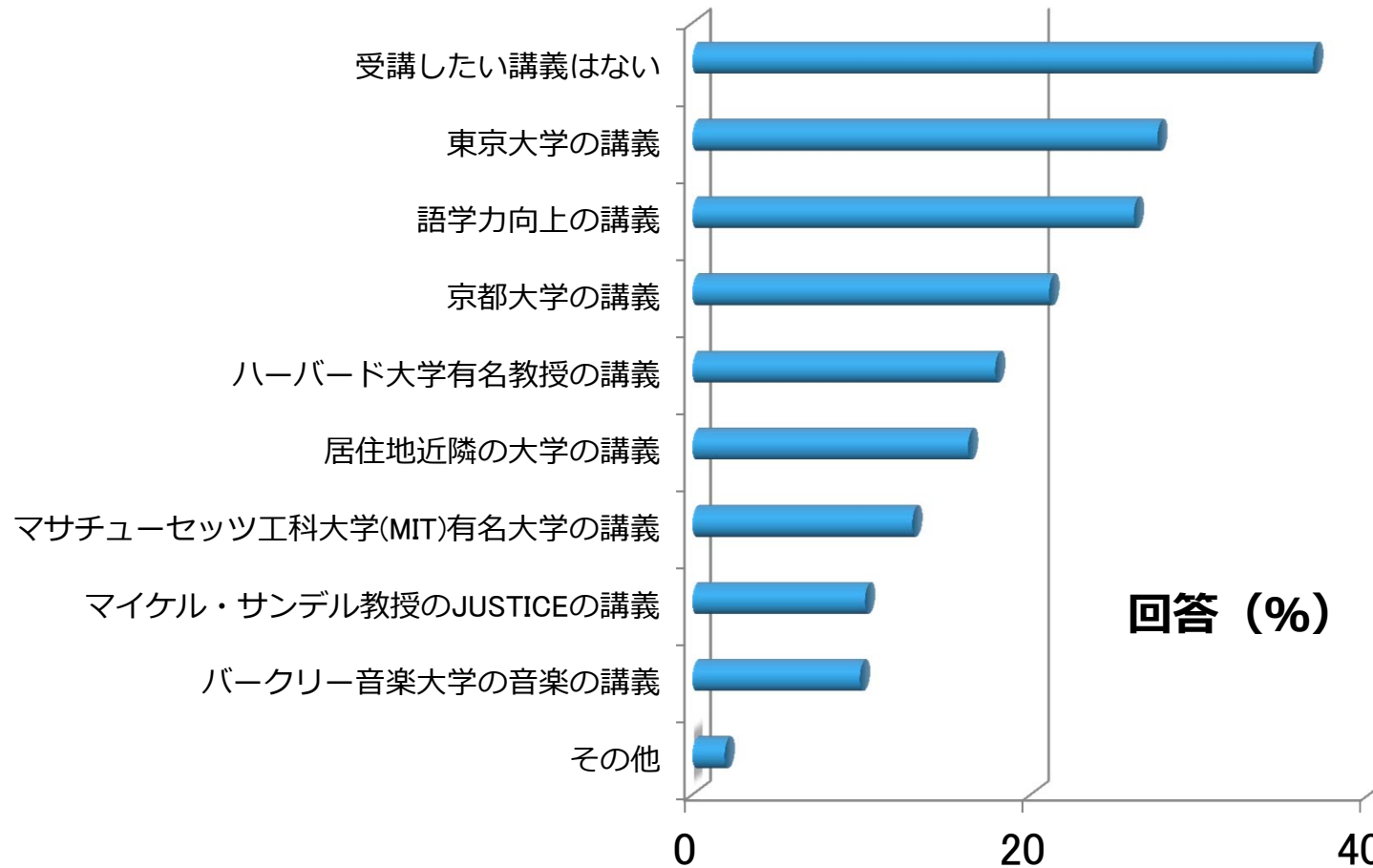
「講義内容による」(53.8%)が最も多く、以下「受講したいと思わない」(31.2%)、「受講したい」(15.0%)の順となっている。

問33. 日本人講師のどのような講義を受講したいですか。



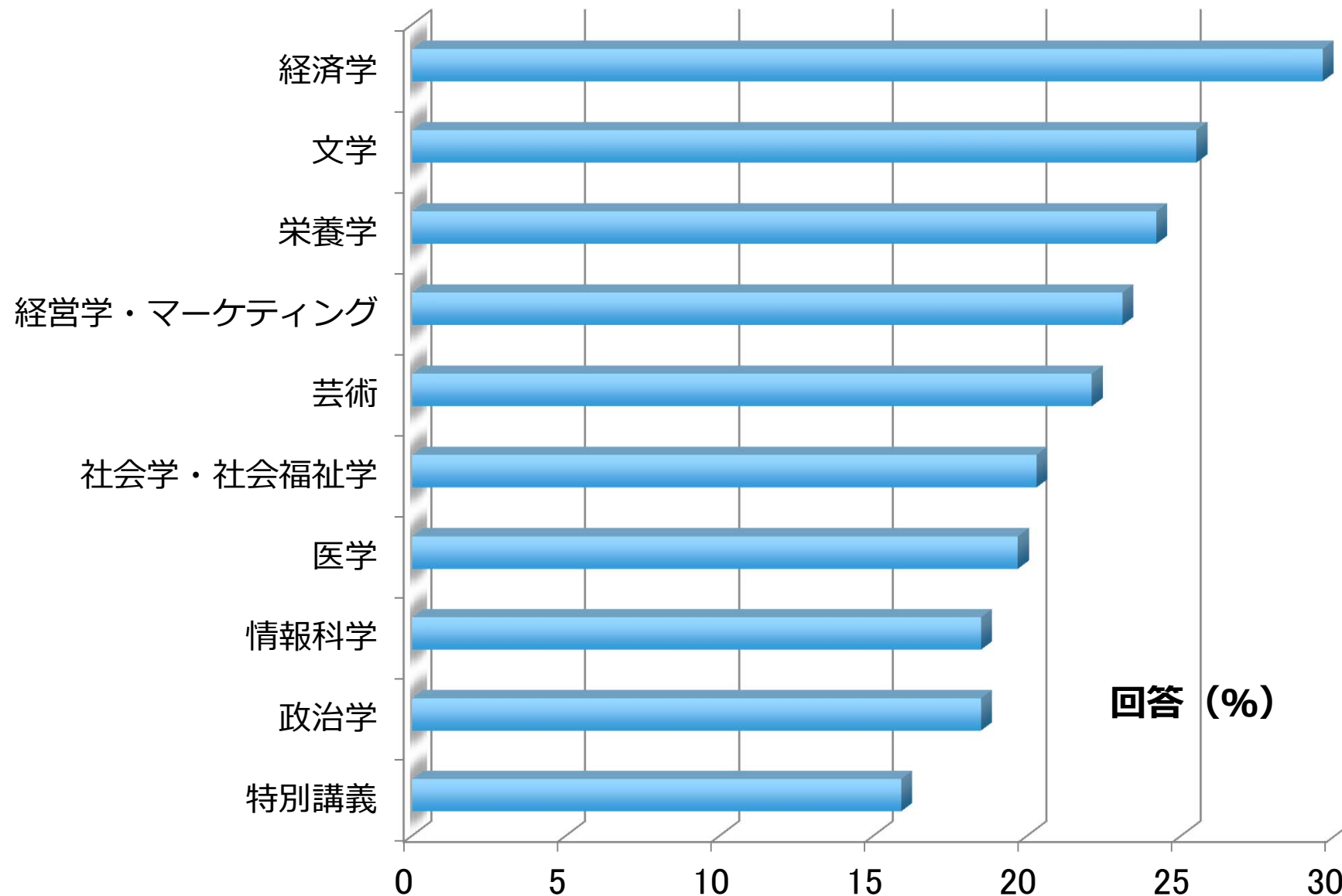
「自分の専門分野の最新知識」(53.1%)が最も多く、以下「就職／キャリアアップに役立つ講義」(43.9%)、「有名教授の講義」(35.3%)の順となっている。

問34. 例えば、以下の授業がインターネット上で受講できるとした場合、受講したいものはありますか。



「受講したい講義はない」(36.7%)が最も多く、以下「東京大学の講義」(27.5%)、「語学力向上の講義」(26.1%)の順となっている。

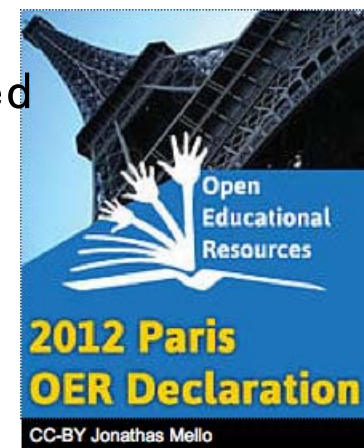
問15. 見たいと思う講義内容は以下のどの分野のものですか。



2012 UNESCO OER 宣言



- a. Foster awareness and use of OER.
- b. Facilitate enabling environments for use of Information and Communications
- c. Reinforce the development of strategies and policies on OER.
- d. Promote the understanding and use of open licensing frameworks.
- e. Support capacity building for the sustainable development of quality learning materials.
- f. Foster strategic alliances for OER.
- g. Encourage the development and adaptation of OER in a variety of languages and cultural contexts.
- h. Encourage research on OER.
- i. Facilitate finding, retrieving and sharing of OER.
- j. Encourage the open licensing of educational materials produced with public funds.



MOOCに関する政府への期待



- 産学連携の推進
 - 産に対して、税制優遇措置の提供
- MOOC修了認定の公式認知
 - 大学単位との整合性提供
- 個人学習者に対するインセンティブ
 - 非正規雇用者の正規雇用支援策としてのMOOC推奨（企業への雇用推奨）